

関ヶ原古戦場を過ぐ（松口月城）

英雄曾て此に乾坤を決す

解説

関ヶ原古戦場に遊びその感慨を述べた詩。

英雄曾此決乾坤
風景依稀関ヶ原
今古興亡多感慨
伊吹嶺畔白雲奔

風景依稀たり関ヶ原

語釈

※関ヶ原古戦場Ⅱ岐阜県の南西、伊吹山の麓に位置する関ヶ原町。南北を山に挟まれ、西へ抜ければ琵琶湖へ。近畿と東海を結ぶ交通の要衝として、古くから関が置かれ、中山道の通り道である。

※英雄Ⅱ知力や才能を持った武人達。※乾坤Ⅱ天と地。天下。※依稀Ⅱはつきりしない様子。※興亡Ⅱ起こる事と、滅びる事。興廃。※感慨Ⅱ心に深く感じて、しみじみとした気持ちになること※伊吹Ⅱ滋賀県米原市の地名。※嶺畔Ⅱ岐阜県の湖沼。

今古の興亡感慨多し

通釈

多くの英雄達が天下を懸けて戦った関ヶ原古戦場の風景は、はつきりとはしていなかったが、その戦いの興亡は感慨深く、古戦場の天を仰ぐと伊吹の湖沼に白雲が勢いよく流れていた。

伊吹の嶺畔白雲奔る